

2026年10月21日、清水大使は、当地の主要なレーザー・光技術企業である Ekspla 社に訪問いたしました。

1 企業概要

同社の主力技術は、レーザーのパルス幅をピコ秒（1兆分の1秒）からフェムト秒（1000兆分の1秒）レベルへと極小化した超短パルスレーザーです。

この技術は、スマートフォンや半導体の製造といった最先端分野で実用化されています。具体的には、スマートフォン製造においてディスプレイ用強化ガラスの切断やカメラホールの精密な穴あけ加工に使用されています。半導体製造においても、最先端の AI 半導体チップや高密度半導体パッケージの製造プロセスに不可欠な要素となっています。

同社は、グローバル市場で確固たる地位を築いています。「Prism Awards」という「フォトンクス（光技術）業界のアカデミー賞」と称される、レーザー業界で最も権威のある賞を2度受賞しています。レーザー部門において同賞を2度受賞した企業は、世界中で同社と米国の大手ファイバーレーザー企業である IPG Photonics 社の2社のみであり、リトアニア企業としては唯一の快挙です。また、世界のトップ100大学のうち約80校への製品導入実績を誇ります。

2 日本との歴史的パートナーシップ

設立翌年の1993年、同社にとって最初の輸出先となったのが日本でした。1993年から1998年頃までの約5年間、同社の全売上高の約80%を日本市場が占めていました。ここで築いた実績と信頼が、後に欧米市場へ進出する際の重要なリファレンスとなったそうです。現在では最大市場の座を欧州に譲っているものの、同社は依然として日本を特別な重要市場と位置づけています。

3 産業の急伸と「知の集積地」への深化

リトアニアの光技術産業は、60社を超える企業集積と年15～20%という世界平均の2倍以上の成長率を誇り、急伸を続けています。特に首都ビリニウスは、活発な研究コミュニティと地元企業の支援を背景に国際会議の開催頻度を伸ばし、単なる製造拠点から世界的な「ナレッジハブ」へと進化を遂げています。とりわけ秋季には、参加人数500名規模の「Optica Laser Congress」や「COLA Conference」、「Baltic Photonics」といった主要な国際イベントが集中し、先端知見の交流拠点となっています。

4 企業情報・お問い合わせ

同社の詳細および製品情報については、下記のウェブサイトをご参照ください。

<https://ekspla.com/>

本件に関し、同社とのビジネス連携等にご関心のある日本企業の皆様は、当館経済班 (economy@vn.mofa.go.jp)までお気軽にお問い合わせください。

【ユロニス CEO から技術説明を受ける清水大使】



(了)